

このことについて、次のとおり報告します。

1 建学の精神（ホームページ「フジコウの紹介」より）

キリスト教の価値観に基づき、頭（Head）と心（Heart）と手（Hands）を調和させながら育み、他者と共に生きることによって、自己実現をめざす人を育成する。

2 校訓（ホームページ「フジコウの紹介」より）

謙遜・忠実・潔白

3 教育目標

カトリックの「愛の精神」に基づき、一人ひとりを大切にして「心」を育てる。

4 重点項目

- (1) 生徒の安定確保と経営の健全化
- (2) 共学化の検証
- (3) 高い進路実現
- (4) 優れた教養と品格のある人材の育成
- (5) 心の教育と教育支援体制の充実
- (6) カトリック校教職員としての意識と資質の向上
- (7) カトリック教会との連携
- (8) 危機管理体制の整備
- (9) 地域との連携と支援

5 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

A 十分に達成されている 3.5～ B おおむね達成されている 3.0～

C 取り組まれているが成果が不十分である 2.0～ D 取り組みが不十分である 1.0～

4 自己評価結果

分野	評価項目		達成状況	年度ごとの推移		自己評価
						改善の方策
建学の精神・教育目標等	1	建学の精神と校訓は、今も引き継がれている。	C	24	2.8	【自己評価】 ・建学の精神、校訓は適切に引き継がれるよう学校教育活動の見直しが求められる。 ・教育目標を実現するという意識を高く持ち、教育課程の不断の見直しに取り組む。 【改善の方策】 ・保護者や地域のニーズ等を踏まえた教育目標が設定されている。 ・学校教育目標の実現を図る魅力化推進委員会を設置し、個と組織が融合する。 ・建学の精神が生かせるよう修養会等を複数回実施する。
				23	3.1	
				22	3.1	
	2	本校の教育目標は、生徒の実態、保護者・地域の要望を踏まえたものになっている。	B	24	3.0	
				23	3.1	
				22	3.0	
	3	「学校教育目標を具現化する」という意識の下で日常の教育活動が行われている。	C	24	2.8	
				23	2.9	
				22	2.9	
	4	学校教育目標に直結した教育課程を編成している。	B	24	3.0	
				23	2.9	
				22	3.0	

教育課程・学習指導	5	生徒の実態に対応した教育課程になっている。	C	24	2.9	【自己評価】 ・教育課程が生徒の実態に対応したものに なるよう改善を図る必要がある。 ・生徒の実態を把握した上で、生徒に合 せた学力向上につながる指導を行う必要が ある。 【改善の方策】 ・コンソーシアム的な組織を作り、自治会や 商工会など地域の力を、生きる力を育成す るために、各教科や総合的な探究活動など に積極的に採り入れる。
				23	3.1	
				22	2.8	
	6	生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導をしている。	C	24	2.8	
				23	2.9	
				22	3.0	
	7	生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導の工夫がなされている。	C	24	2.9	
				23	2.8	
				22	2.9	
	8	教科指導において、学年や教科部会等の連携・協力が行われている。	C	24	2.7	
進路指導				23	2.7	【改善の方策】 ・教科主任を大幅に入れ替え、若返りを図 り、ベテランが若い教科主任をサポートす る。 ・学ぶよろこびを生徒に伝え、向上心を高め られる指導方法をさらに模索する。 ・スタディサプリを導入し、個別最適化を進め る。
				22	2.8	
	9	評価基準・評価方法は生徒の学習状況を適切・客観的に評価するものになっている。	C	24	2.8	
				23	2.9	
				22	3.0	
	10	生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている。	B	24	3.1	
				23	3.0	
				22	2.8	
	11	進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている。	C	24	2.9	
				23	2.7	
生徒指導				22	3.2	【改善の方策】 ・スタディサプリを導入やインターンシップを拡 大し、進路の最適化を進める。 ・分掌と学年の連携を深め、指導の充実を 図る。
	12	学年毎に系統的・計画的な進路指導が行われている。	C	24	2.8	
				23	2.9	
				22	2.9	
	13	H R活動が生徒を健全な社会人として育成するよう行われている。	C	24	2.8	
				23	2.9	
				22	2.6	
	14	挨拶や身だしなみ指導により基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚を図っている。	C	24	2.6	
				23	2.8	
				22	2.8	
	15	生徒会活動を通して自主独立の精神を養うとともに北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てている。	C	24	2.8	
				23	2.8	
				22	2.8	
	16	生徒会行事のねらいを全教職員が理解し、積極的に生徒の活動に関わっている。	C	24	2.6	
				23	2.6	
				22	2.4	
	17	生徒指導に関して教職員間の共通理解や協力が図られている。	C	24	2.7	
				23	3.0	
				22	2.5	
	18	心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している。	C	24	2.9	
生徒指導				23	3.1	【改善の方策】 ・不登校傾向の丁寧な対応を維持するため に学年団との連携を深める。 ・個別最適化と協働的な学びを組織として どう捉え、実現化するかを魅力化推進委員 会で検討し、実現できるものは素早く具現化 する(例:バーカーの次年度採用)。 ・家庭や警察、他校との情報共有や相互 理解を深める。 ・懲戒などの罰コントロールから、本人の理 解を深める生徒指導を行う。 ・校内人事を工夫し、生徒会の担当者を育 成し、生徒会活動が自治であることを学べる ようなレベルを目指す。具体的には学園祭、 年度末レクの活性化を図る。
				22	3.1	
	19	不登校などの生徒の変化に適切に対応している。	B	24	3	
				23	3.1	
				22	3.1	
	20	部(局)活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている。	A	24	3.5	
				23	3.4	
				22	3.3	
	21	H R担任と教科担任、部活動顧問が適宜連携し生徒指導を進めている。	C	24	2.9	
				23	2.9	
				22	2.8	

学 校 運 営	22	担任と副担任の連携の下、学年が組織的に運営されている。	C	24	2.8	【自己評価】 ・組織的な学校運営ができていない。グループに判断できず、他責傾向が認められる。 ・職員が発案したチーム担任制を2月3月に試行的に1年生で導入した。その成果は検証中だが、よい効果も認められる。 ・社会が求めるコンプライアンスと教職員の危機意識の間に乖離がある可能性がある。
				23	2.8	
				22	2.9	
	23	各分掌は、必要に応じて相互に連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。	C	24	2.6	【改善の方策】 ・研修受講データを開示し、研修を推進し、研修等を通じて「現状では十分ではない」、との意識を高く持つ。 ・研修プロジェクトチーム主導でオンライン研修を効果的に活用する。 ・若手を登用し、前任者が育成するような校内人事を進める。 ・外部講師による研修の充実(東京大学等)。
				23	2.9	
				22	3.0	
	24	前年度の反省に基づき、各分掌や委員会等の活動計画が次年度にの反省を生かされている。	C	24	2.5	【自己評価】 ・伝統に基づいた学校なので、地域からの応援を篤くいただいている。 ・企業との連携事業が充実しているが、周知されていない。 ・地域連携の基礎として、自治会との連携を模索しはじめています。
				23	2.8	
				22	2.9	
	25	限られた時間の中で研修(全体、教科、個人等)が積極的に進められている。	C	24	2.6	【改善の方策】 ・学校教育活動全体で、WIN-WINの関係を構築し、ウェルビーイングを目指す。 ・三楽町の有識者、役員等と熟議し、地域の活力を生かせるようなコンソーシアムのような組織作りと協働関係の強化し、適切な情報発信に努める。 ・学園祭(バザー)の土曜開催や地域自治会との連携。 ・生徒会発信のInstagramなど。
				23	2.8	
				22	2.6	
	26	危機管理意識を高く持ち、不測の事態に適切かつ組織的に対応している。	C	24	2.7	【自己評価】 ・補助金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	2.8	
				22	3.1	
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	27	生徒指導について、家庭との連携や関係機関との連携が図られている。	C	24	2.9	【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。 ・法的根拠を示しながら、日々の安全管理に努める。
				23	3.1	
				22	2.6	
	28	進路指導について、保護者の理解、関係機関との連携が図られている。	B	24	3.1	【自己評価】 ・補給金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	3.1	
				22	3.0	
	29	学校の方針や活動が保護者・地域に知らされ、理解されている。	C	24	2.6	【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。 ・法的根拠を示しながら、日々の安全管理に努める。
				23	2.9	
				22	3.1	
	30	生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいる。	C	24	2.8	【自己評価】 ・補給金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	2.9	
				22	2.8	
	31	P T A 活動が充実した活動になるよう努めている。	C	24	2.8	【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。 ・法的根拠を示しながら、日々の安全管理に努める。
				23	2.9	
				22	2.9	
教 育 環 境 整 備	32	家庭訪問、懇談、各種通信等により家庭との連携が図られ、協力が得られている。	B	24	3.1	【自己評価】 ・補給金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	2.9	
				22	2.8	
	33	校内の安全確保のため、施設設備の維持・管理の取組が適切に行われている。	C	24	2.9	【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。 ・法的根拠を示しながら、日々の安全管理に努める。
				23	3.1	
				22	2.9	
	34	教材器具をはじめ、各種備品の整備・保管が適切に行われている。	C	24	2.9	【自己評価】 ・補給金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	2.9	
				22	2.8	
	35	本校には、仕事の事を含め管理職、同僚教職員に相談できる環境がある。	C	24	2.8	【自己評価】 ・補給金を活用し、会議室をデジタルラボへ変更し、ICT化を進めたが、一部職員の理解や活用にとどまっている。 ・計画的に施設設備を使用したり、学校安全に対する理解を深める必要がある。 ・旧美術室を活用し、御堂を整備した。
				23	2.9	
				22	2.7	
総 合 評 価	総合的な評価についてあてはまるものを選んでください。		C	24	2.9	
				23	2.9	
				22	2.7	

【自己評価】

・カーリング女子の全国大会優勝などの成果もでている。加えて、地域からの応援があった。反面、部活動においては、予算を圧迫する勢いがみられる。
・一方で学力・学習意欲が低下した生徒、対人コミュニケーションに抵抗を感じる生徒が増加した。
・事務と職員室の連携により、デジタルラボや御堂が実現した。

【改善の方策】

- ・学校教育目標の実現を軸に、職員のキャリア形成をも視野に、魅力化推進委員会を最大限活用する。
- ・校内人事を活用し、ベテランの分掌部長、新任の教科主任など、職務を通じた職員間の信頼関係を構築する。
- ・事務と職員室の連携を深めることにより、学びの教育環境の向上をさらに具現化する。
- ・オホーツク管内唯一の私立高校である特長を生かした教育活動や発信をウェルビーイングな視点で総合的に考え、具現化していく。

2024年度 北見藤高等学校学校評価（学校関係者評価）報告書

- 1 実施時期 : 2025年 2月27日（木）～3月7日（金）
- 2 対象者
- 3 実施内容

本校がまとめた2023年度学校評価「自己評価」が妥当かどうかを次の4段階により評価していただいた。

4 = 「上まわる」・・・期待を上まわっていると思う。
3 = 「おおむね」・・・概ね適切な評価だと思う。
2 = 「不十分」・・・物足りなく不十分な達成状況だと思う。
1 = 「見直し」・・・計画・取組の見直しが必要と思う。

4 結果

	Q1. 「建学の精神・教育目標」の結果に対する評価	Q2. 「学習指導」の結果に対する評価	Q3. 「進路指導」の結果に対する評価	Q4. 「生徒指導」の結果に対する評価
評価結果	3.0	3.1	3.1	2.9
自己評価	2.9	2.8	2.9	2.9
増減	0.1	0.3	0.2	0.0
	Q5. 「学校運営」の結果に対する評価	Q6. 「家庭との連携」の結果に対する評価	Q7. 「環境整備」の結果に対する評価	Q8. 「総合」の結果に対する評価
評価結果	3.1	3.1	3.1	3.2
自己評価	2.6	2.9	2.9	2.9
増減	0.5	0.2	0.2	0.3

評価者

5名 内訳：本校支援組織代表
(道議会議員、金融機関役員、商工会議所役員など)

※評価点の算出方法
・評価点を4.0～3.0…A、3.0～2.0…B、2.0～1.5…C、1.5～1.0…Dのランクに分けたもの
・達成状況のAと☆印は成果が上がっている、★は十分に上がっていないと考えられるもの

分野	No.	質問	十分	おおむね	不十分	まったく	無回答	評価点	達成状況
教育目標	1	学校の教育目標は、生徒の実態や保護者・地域の方々の願いを踏まえたものになっているか。	1 20%	4 80%	0 0%	0 0%	0 0%	3.20	☆ A
	2	日常の教育活動は、教育目標や経営方針を反映したものになっているか。	1 20%	4 80%	0 0%	0 0%	0 0%	3.20	☆ A
学習指導	3	教育目標ならびに教育目的に直結した教育課程を編成しているか。	1 20%	3 60%	1 20%	0 0%	0 0%	3.00	★ A
	4	生徒の関心や意欲を高め、個々に応じた指導を行っているか。	1 20%	4 80%	0 0%	0 0%	0 0%	3.20	☆ A
生徒指導	5	挨拶や身だしなみなど、高校生としての基本的な生活習慣が身に付くよう継続的指導を行っているか。	1 20%	4 80%	0 0%	0 0%	0 0%	3.20	☆ A
進路指導 特別活動	6	進学・就職等、生徒一人ひとりの進路実現のために、十分な取り組みが行われているか。	3 60%	2 40%	0 0%	0 0%	0 0%	3.60	☆ A
	7	生徒が学園祭や体育祭、追悼式やクリスマス会などの行事に、主体的・積極的に取り組んでいるか。	3 60%	2 40%	0 0%	0 0%	0 0%	3.60	☆ A
その他	8	学校の教育内容について、保護者や地域へ積極的に情報発信しているか。	2 40%	1 20%	2 40%	0 0%	0 0%	3.00	★ B
	9	PTA活動に積極的に取り組み、学校の説明責任を十分に果たしているか。	1 20%	3 60%	1 20%	0 0%	0 0%	3.00	★ B
総合評価	10	本校の教育活動は、総合的に見て成果が十分に上がっているか。	1 20%	4 80%	0 0%	0 0%	0 0%	3.20	☆ B

意見

- ・自己評価が厳しくなることは理解できるが、共学化してよかったし、私学としての特徴が表れている。
- ・他校を意識する経営が評価できる。
- ・学校からの発信は工夫の余地がある。
- ・働き方が変わってきている。デジタル世代が台頭している。若者の抜擢は素晴らしい。
- ・学力だけではなく、生きる力を育てることが大切である。生徒は自分が認められたい。それを感じさせる教育実践。
- ・職場の雰囲気をよくする必要がある。藤の文化を大切にし、修養会をするなど工夫をしたらよい。
- ・地域の意見を聞いて教育を展開する時代への移行期である。公立ができないことを私学が行うという特徴づくりが大切。公立の前を走る教育、オホーツク管内唯一の私学として存在感を出すべきである。
- ・従前の評議委員会から脱却し、新しい血、オホーツクをフィールドとする地域から指針を採り入れたらよい。
- ・N高、池上学院、有朋高校などの分析と活用が必要ではないか。